

青春リハビリテーション 特定医療法人 弘慈会 宮古第一病院 院長

加藤 博さん

kato hiroshi

「青春」を取り戻そう！ やさしく・つよく地域に貢献できる医療を



Profile

S33.1.1生。O型。東京都出身。慶応義塾大学理工学部卒業後、日製産業株式会社、ヨーロッパを担当し6年間貿易に携わる。退社後、東邦大学医学部入学。医師国家試験に合格し医師免許を取得。平成18年宮古第一病院院長に就任。

青春を取り戻そう！
それが青春リハビリテーション

「青春リハビリテーション」。くすぐったいネーミングと院長先生の大きな顔写真が入った看板を、盛岡市内の至るところで目にすることが出来る。今回事業の中心となる宮古第一病院のある看板でおなじみ、特定医療法人宮古第一病院院長の加藤博先生だ。「青春リハビリテーション」って体なんなの？ この写真の先生は誰？ そんなふうにも思っている方も多いと思います。スタッフも最初は恥ずかしいと言っていたほどですからね(笑)」。実際にお会いする加藤先生は、言葉が過ぎるかもしれないが、医師という肩書きを全く意識させない、明るくユーモアな方だった。取材が進むにつれ、そのなんともいえない不思議な魅力が解き明かされていった。「青春」というテーマのもと、誰もが経験したあの頃の元気と夢、希望をもう一度持ってもらおうという思いで、リハビリテーションを通して患者さんを支えていきたいと思っております。その力強く語る先生が、私たちスタッフに出してくれたのはお茶でもコーヒーでもなく「コーラ」。青春といえば「コーラ」この加藤先生の明らかさは、病院全体に伝わっているのだから。スタッフも患者さんみなさんにかかると、この「風変わった？」加藤先生、医師になるまでの道



スタッフのユニフォームその名も「青春ボロシャツ」。最初は恥ずかしがっていたスタッフも今は進んで着用し、青春を謳歌しているとのこと。

のりも相当変わっている。慶応義塾大学理工学部卒業後、大手商社に入社し、商社マンとして貿易に携わり、ヨーロッパを担当。「社内恋愛で失敗しちゃつてね(笑)。会社を辞めたことになんか、さて何をやるかと思ったとき、自分には何の資格もないことに気が付いたんです。そこで医師を志してみようと思ひ、医学部を受験しました。挫折をも人生の糧とする生き方、これまでまさに青春！を地で行く加藤先生は、医学部卒業、医師国家試験に合格し、念願の医師免許を取得。順風満帆な人生のスタートを切ったはずが、「医局という制度にどうもなじまなくて...。医大の学費という借金もあり、救急病院での夜勤から医師不足が進む全国の過疎地を歩き、がむしゃらに働きました。救急も診療所にもさまざまな病気の方がいらつしやいます。医師として貴重な経験をさせてもらいました。そんな風来坊(失礼！)な先生が盛岡を訪れたのは、緑が萌える、とある年の6月のこと。二目で気に入ってしまった。緑がかかると美しくなると！ そしてくれいな川。ここにずっといたいな」と思ひこり越しちゃいました。

明るく 爽やか 慈愛、そして懐の深さと大きさを「青春」を全国へ

平成16年10月、当時の宮古市の加藤病院現宮古第一病院の院長に誘われ、消化器内科医師として着任。「血縁関係があるように思いますが、加藤病院とは切関係がありません。今思いますが、名前が引き合せて何かの縁だったのかも思いませんね」。しかし、いざ赴任してみると、加藤病院の経営状況は火の車。病院が「倒産」する寸前だったという。「徹底的に経営を見直す」ことから始めましたね。一番手取り早いのはリストラですが、それは絶対にやりたくなくなつたんです。まず、職員も患者さんも困つてしまふこと。そこで始めたのが個別採算制です。部署ごとに独立させ、現在自分の部署がどんな状態にあるかをスタッフ全員で考える、どうすれば患者さんにとって病院にとって一番良い方法かを考える...すべてにおいて職業者と

してのモラルを持つてほしいと思ひました。もう一つ先生が取り組んだことは、医師とスタッフの確保。動きやすい環境と意欲が持てる体制を整えることで、人員の確保に成功。4月1日時点で全国から総勢55名の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士といった国家資格を持ったリハビリ専門スタッフと75名の看護士など、多数の医療資格者が働いている。病院長に就任後、宮古第一病院に改名。地域に貢献できる医療を、また、時には苦しいことや辛いことがあつても青春時代のように前向きにリハビリに取り組んでほしいという思いから青春リハビリテーションを提唱。商社時代に培った経験も活かされ、経営状況は瞬間に改善され、現在に至つては...。*「青春リハビリテーション」は商標登録済み

加藤先生はよく「モラル」という言葉を口にされる。先生が考えるモラルとはどんなものなのだろう。「私は弱肉強食が嫌いです。共存のモラルがあつても良いと思うんです。給料も年功序列や能力主義でなくてもいい。一生懸命頑張りたい人もそうでない人も、それなりにみんなが笑顔で幸せである方法を探せばいい。私が考えるモラルは、「一口意識を持った職業者としてのモラル」です。道徳心を持つて、患者さんのもちろん、同僚や仲間を助ける。青春こそつたつたはななな...。楽しく、明るく働く。私たちのその姿はまことに患者さんへの励みにもなるはず。古事記の「因幡の白兔」で白兔を助ける大穴牟遲神(後の出雲大社の大国主の大神)のような、懐深く、明るく爽やかに慈愛に満ちた人でありたいと思つたのです」。そして加藤先生が目指すのは「青春リハビリテーション」を全国に広めるとのこと。「リハビリテーション」といふと、病氣や怪我で失つた機能を取り戻す、後ろ向きなイメージも付いてまわりますよね。そこではなく、私たちは常に青春のような明るく爽やかに前向きなリハビリテーションを心がけています。輝いていた青春時代を取り戻すことがリハビリテーションなんです。先生のモラルは「明るく、爽やか、慈愛、そして懐の深さと大きさ」。その言葉の意味を知りたいければ一度加藤先生に会つてみるといい。べいべいと引き込まれていく強さと優しさに、甘酸っぱいあの青春の記憶が甦るはず。



盛岡市内でも至る所で目にする「青春リハビリテーション」の言葉と加藤先生のお顔。訪問看護のクルマにも同じデザインがデコレーションされています。

青春リハビリテーション
特定医療法人 弘慈会 宮古第一病院
宮古市保久田8-37
☎0193-62-3737